

環境報告書をご存じですか？

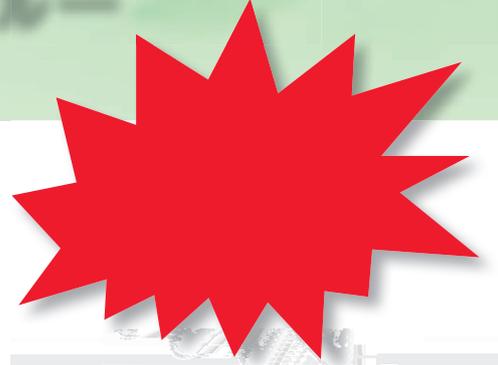
環境報告書は、事業者が環境負荷及び配慮等の取組状況について公表するものです。本学では、環境配慮促進法 環境報



環境に配慮した書

紙をしよう

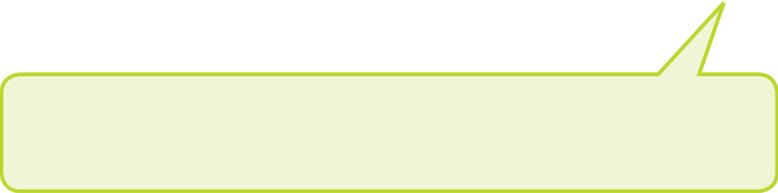
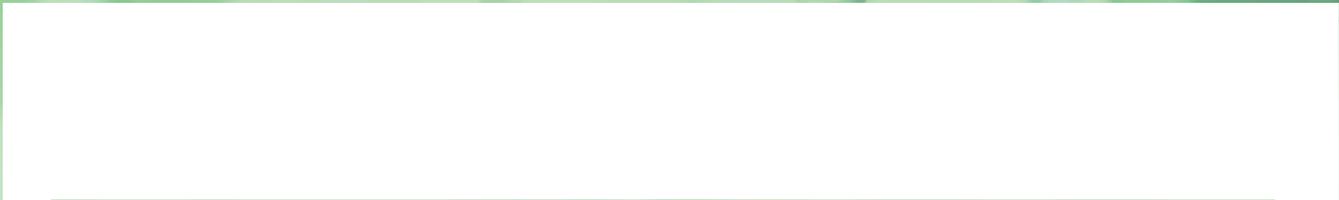
— ごみの減とリサイクル —



[Empty orange rounded rectangular text box]



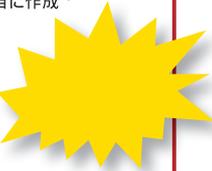
[Empty orange rounded rectangular text box]



CO₂排出量の多い順
国立大学法人ランキング

(環境省のデータから独自に作成)

- 1位 東京大学
- 2位 東北大学
- 3位 京都大学
- ⋮
- 8位 広島大学



CO₂排出量の多い順



キャンパスは「まるごと博物館」

— キャンパスの自然環境の保全と活用 —

詳しくは、環境報告書の p.23 ~ 26参照

東広島キャンパスの豊かな自然環境

東広島キャンパスは、1年を通じて絶滅危惧種30種類以上を含む、多種多様な生物と出会うことのできる全国に誇れる自然環境を維持しています。広島大学総合博物館では、このような自然環境を展示物にとらえ、「発見の小径」(散歩道)を整備することで、広く公開保全しています。博物館本館と専門的な展示であるサテライト館がこの「発見の小径」で繋がることで、「キャンパスをまるごと展示するエコ・ミュージアム」として機能しています。学術的にも教育的にも非常に価値のある自然環境ですが、希少種の生息地の消滅(駐輪場や畑に改変)や外来種の持ち込みによる在来種の駆逐や希少種の密漁など問題も数多く抱えています。このような希少な自然環境を保全するために、本学では環境目標を立て環境管理ゾーニングにより、積極的にその保全を図っています。みなさんの積極的な参加と協力をお願いします。

2012年度環境目標と実績

環境目標	主な活動実績
東広島キャンパスに生息する動植物の生息環境の管理	<ul style="list-style-type: none"> 陣が平山の整備を行い、里山環境の継続管理を実施 ふれあいピオトープの草刈り・整備を実施 野鳥保護のための草刈り作業・立て看板設置及び広報誌等でのPRを実施
キャンパスの自然環境を活用した環境教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> 総合博物館による「フィールドナビ」を実施 スポーツ実習教育・野外観察において土質層区分等の土壌観察を実施 ピオトープを活用した親子観察会を実施 園児・児童の農場見学や動物と触れ合う体験を通して環境教育を実施
キャンパスの自然環境の保全	<ul style="list-style-type: none"> 植物管理室によるキャンパス内の植生管理を実施 樹木の剪定及び害虫駆除を実施 自然環境保全に関する検討WGを設置し、実態把握と課題検討を実施



フィールドナビの様子

*昨年度の博物館来館者数：10,833人、
「発見の小径」利用者(教養ゼミ)：507人、
フィールドナビ参加者数：240人/5回

東広島キャンパスの環境管理：ゾーニングと注目ポイント

東広島キャンパスは約250haの広大な敷地の中に、山林、ため池、溪流など多様な環境を含んでおり、そこには多様な動植物が生息しています。

大学に必要な機能・利便性を確保しながら豊かな自然と共生していくため、本学では、「自然区」「半自然区」「管理区」の利用目的と環境特性に応じたゾーニング管理を実施しています。

トピックス キャンパスの外来種

キャンパス内では、特定外来種に指定されているウシガエル、ブルーギル、オオクチバス、オオキンケイギク、要注意外来種に指定されているアメリカザリガニ、オオカナダモなどが侵入定着しています。在来種に甚大な危害を加え大きな問題となっています。

図の説明：
アメリカザリガニにより、尾と後肢を失ったアカハライモリ

